

# 24 ものづくり大学

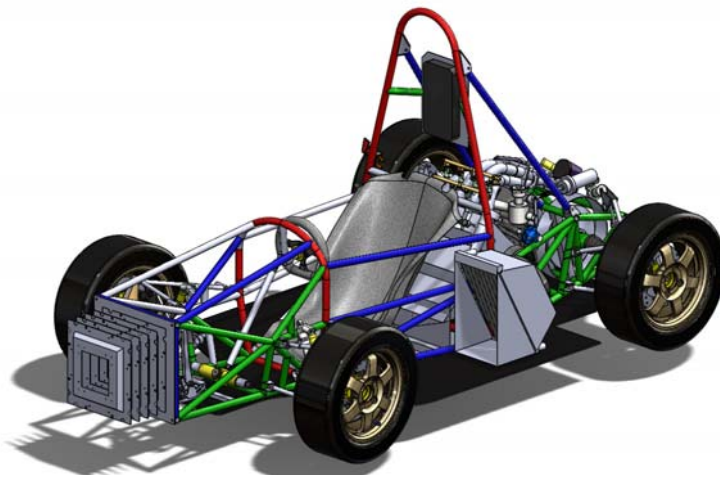
Institute of Technologists

## 第12回大会を終えて・・・ 悔しさの残る結果

### モノレーシング

MONO Racing

[http://www.iot.ac.jp/manu/project/mono\\_racing/](http://www.iot.ac.jp/manu/project/mono_racing/)



### 今回の総合結果・部門賞

●総合55位

### Profile チーム紹介・今までの活動

私達MONO Racingの特徴は、車両部品の「内製率」が高いということです。9割以上の部品が内製品であり、大学の汎用・NC加工機を使用して製作を行っています。加工について外注した部品はひとつもないところは「ものづくり」を冠する大学の学生として誇らしい部分であると自負しています。

### Team-member チームメンバー

#### 大吉 暁彦 (CP)

原 薫 (FA)、三井 実 (FA)、荒井 俊紀、  
村松 英知、杉浦 拓也、松本 正、浦野 祥吾、  
高木 謙悟、根本 怜、長谷川 直樹、宮島 大弥、  
葛西 大悟、金子 春貴、鎌田 瑠梨、佐藤 好倫、  
齋藤 武志、西村 智明、島本 遥平、和田 優紀、  
山根 拓馬、山田 大、猪野 和也、岩名 佑人、  
橋本 拓也

### Sponsors スポンサーリスト

アルテアエンジニアリング、NTN、江原酸素、F.C.C.、  
岡田モータース、Quick羽生、SACLAM、スタジオ37、  
住友電装、ソリッドワークス・ジャパン、タイヤセレクト吹上、  
トヨタレンタリース埼玉、バイクスタッフARIE、  
本田技研工業、民宿いまい、ミスミ

### Presentation プレゼンテーション

マシン名：MF-009

今年度のマシンMF-009は、よりドライバーにマシンを動かす楽しさを知っていただくことを目標に、「旋回性能の向上」、「ドライバビリティ」、「信頼のある安全性」をコンセプトに掲げ、マシンの設計を行った。よりドライバーに楽しさを感じていただくために、コンパクト低重心に設計したパワートレインを核とし、エンジンなどを重心まわりに集中させる車両レイアウトにこだわった設計を進めた。

また、ドライバーの身長に合わせてペダルユニットを前後に移動可能なため、自分が運転しやすい状態に合わせることが可能となっている。ドライバビリティの向上としてスロットルボディの改良やステアリングの設計の見直しなどを行い、ドライバーが思い描く軌道走るマシンをめざして試行錯誤を重ねた。

最後に、ドライバーが安心してレースに集中できるマシンとして、インパクトアッテネーターの改良を行うと共に、足まわりの強度の見直しなどを念入りに行った。

### Participation report 参戦レポート

大会初日は事前車検がありました。順調に通過できると思いましたが、一点指摘されたところが修正し、その日の夕方にクイック車検で通過させました。

2日目は、静的審査を順調に進めながら、空いた時間に車検で残っていたチルト、重量、騒音に合格。ブレーキテストの時、吸気系にトラブルが発生したものの、なんとか通過させることができました。

いよいよ3日目の動的審査。2日目に発生した吸気トラブルは、解消されていませんでしたが、動的審査のタイムを残すため、不調のままアクセルレーション、スキッドパッド、オートクロスを走行しました。記録は残すことができましたが、納得のいかない結果でした。

いよいよ4日目。3日目のオートクロスの結果によりエンデュランスの走行順は、Cグループの最後の方でしたが、ギリギリ走行できるのではないかと考えていました。しかし、朝から激しい雷雨が続き、エンデュランスが始まる時間が約2時間遅れました。時間切れによる審査終了が心配されましたが、私たちは諦めずプラクティスで走り込み、マシンの調子を万全にしていました。結局、朝の天候が災いし、走行打ち切りとなってしまう、今年は不完全燃焼な形で、大会を終えました。

来年は、この悔しさをバネにして、完走はもちろん、上位をめざしてチーム一丸となって頑張っていきたいです。最後に、支援して頂いたスポンサーの皆様や大学関係者の皆様、OBの皆様から感謝申し上げます。

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/12th/movie/24.html>